

令和8年度東京都立荒川工科高等学校全日課程

学校経営計画

校長 長田 学

1 目指す学校像	<p>「進路指導重点主義」を教育理念とし、基礎的・基本的な知識・技術の習得並びに規範意識をもって自らの発言や行動を律することができる力を基盤として、TokyoP-TECH事業や地域・社会との連携で外部の力を積極的に活用し、ものづくりによる達成感を感じ、働くことの意義を理解し、様々な問題や課題の解決を図ることができる人材を育成する。 【進路指導重点主義】 ①意欲的に進路選択ができる。 ②暮らしの中での課題に気付くことができる。 ③協働しながら目的を達成することができる。</p>	<p>(1) ミッション：TokyoP-TECH事業の着実な推進と共に、電気・電子・情報技術の技術者として、産業社会を支える人材を育成するため、免許・資格の取得や検定の合格とともに地域社会や企業等との連携を推進する。 (2) ビジョン：生徒一人一人の進路実現を図るため、新たな時代をたくましく生きていく力として、知・徳・体をバランスよく育成する学校を目指す。 (3) コミュニケーション：信頼で結ばれた良好な人間関係の構築を図るため、挨拶を励行し、すべての教育活動において協働・交流を図り、主体的・対話的で深い学びとなる学校を実現する。</p>
----------	--	--

2 中期的目標と方策	<p>(1) 学校経営</p> <p>①組織的で継続的なTokyoP-TECH事業の着実な推進を行う。 ②高いコンプライアンスを有する教職員集団を育成し、組織的で丁寧な対応で、生徒・保護者の信頼を高める。 ③様々な学校課題を横断的に検討し、教育活動の改善や工夫・提案などを積極的に行う。 ④ ICT 機器等を活用し会議等の効率的運営と意思決定の迅速化を実施する。</p>	<p>(2) 学習指導</p> <p>①生徒の興味・関心を高めるため、Tokyo P-TECH事業や企業や専門学校等と連携して、体験活動も多く取り入れた学習指導を行い、主体的・対話的な学びとなるよう工夫する。 ②工業等のカリキュラムにおいて、ものづくり教育を推進する。 ③一人1台端末の活用を推進するとともに、基礎学力の向上を図り、思考力・判断力・表現力を養い、卒業後も自ら伸びていく態度を育む。 ④ PBL（課題解決型学習）を活用した基礎・基本の徹底とともに、毎時の振り返り学習体制を確立する。 ⑤ICT機器による動画などの教材を積極的に活用し、現象などを捉えやすい授業を行う。 ⑥少人数授業、補講・補習を充実させることで、生徒にとって「分かる授業」を確実に実践する。</p>	<p>(3) 進路指導</p> <p>①進路実現に向けて、「進路指導重点主義」の推進を図るとともに、TokyoP-TECH事業や地域・社会との連携で外部の力を積極的に活用したキャリア教育を推進し、生徒の自己進路選択能力の育成と進路実現に取り組む。 ②学年ごとの目標（1年：働くとは 2年：職業選択 3年：企業選択）からガイダンスやハローワーク等との連携による就労支援を生徒の発達段階に合わせて、適切に実施し、生徒の自己表現とともに社会参画意識の向上を図る。</p>	<p>(4) 学校生活と健康づくり</p> <p>①挨拶100%の実現 ②身だしなみ、礼儀、ルールやマナーについて、あらゆる場面で生活指導を全教員で行い、社会規範意識の向上を図り、卒業後に向け、社会人としての自覚を育成する。 ③教育相談体制の充実に向けて、生徒情報の全体共有体制を図るとともに、いじめの早期発見と全教職員が一致していじめを許さない姿勢を見せ、いじめ撲滅を果たす。 ④生徒の健康づくり、安全管理、環境美化を徹底し、体力向上を図る。 ⑤積極的に社会に参画する人材の育成を図るため、教科と関係機関が連携した体験活動により、消費者教育・主権者教育を適切に実施する。</p>	<p>(5) 特別活動</p> <p>①部活動への加入を勧め、良好な人間関係を構築させるとともに、地域との関わり、企業等の外部機関との連携を通して、社会に対する参画意識を高める。 ②団体行動において協働しながら目的を達成し、課題解決に行動できる力を育成する。 ③工業科で実施している資格取得、英語検定、数学検定など積極的に挑戦する意欲を高める。 ④学校行事や部活動において、日頃の学習内容を結び付けながら社会性を育てる。 ⑤TokyoP-TECH事業の一環として海外スタディツアーを実施し、グローバル人材の育成を推進する。</p>	<p>(6) 広報活動と地域連携</p> <p>①本校を志す生徒を増やすため、ホームページやSNS等を積極的に活用し、本校の魅力を発信する。 ②募集・広報活動(出前授業・学校説明会等)の工夫・改善による「推薦に基づく選抜及び学力検査に基づく選抜」の応募倍率の向上を図る。 ③組織的・計画的な募集対策を実施する。教職員による中学校訪問、管理職による学習塾等への訪問による募集対策を実行する。地域連携を充実・開拓し、本校の魅力を伝える。</p>
------------	--	--	---	--	---	--

3 今年度の取組目標と方策	<p>(一) 教育目標と方策</p> <p>校内組織を活性化し1人ひとりが意欲的に取組める環境を実現する。 (ア)「Tokyo P-TECH」によるIT人材育成のためのプログラムの計画的・継続的な指導の推進。 (イ)企画調整会議での学校経営計画の理解浸透や分掌間の調整能力を高め、学校運営連絡協議会を活用し、学校運営の適正管理、必要方策の検討と実施を行う。 (ウ)主幹会議を機能させ、本校での教育課題に積極的に対応する。 (エ)経営企画室は、経営的視点に立った経営計画を策定し執行する。 (オ)校務を組織化し、業務の分散化を行う。 (カ)組織的なOJTによる人材育成を行う。 (キ)ライフ・ワーク・バランスの改善に取り組む。 (ク)コミュニケーションを活発に行い、教職員間の円滑な意思疎通を図る。</p>	<p>学習指導の充実・工夫（学校評価アンケート生徒の授業満足度80%以上） (ア)「TokyoP-TECH」事業の企業、専門学校との連携を推進し、授業等にも活用する。 (イ)工業の実技科目においてものづくり教育を取り入れていく。 (ウ)PBL（課題解決型学習）を推進し、授業改善を図るとともに、生徒の学習成果の発表の場を確保する。 (エ)基礎的・基本的な学力の定着を図るため、個に応じたきめ細かな指導を推進する。 (オ)生徒の興味・関心を効果的に高めるため、外部施設等の見学やICT機器を積極的に活用する。 (カ)読書週間を設定し、本に親しむ習慣を身につけさせる。（不読率50%以下） (キ)JETプログラムを活用し、英語に親しむ授業を実践する。 (ク)課題研究発表会におけるプレゼンテーション能力の向上を図る。 (ケ)外部機関と連携した主権者教育・消費者教育等の充実を図る。 (コ)一人1台端末の利活用とともに、オンラインでの学習支援体制の充実と授業の実践を行う。 (サ)各教科の授業改善の取組の共有化を図る。</p>	<p>進路指導の充実・工夫（学校評価アンケート生徒の進路指導満足度80%以上） (ア)ハローワークやTokyo P-TECHの各企業と連携し、組織的・計画的なキャリア教育を実施する。 (イ)荒工キャリアノート（本校独自教材）を活用し、3年間を通じた進路指導を実施する。 (ウ)第2学年全生徒対象にインターンシップを実施し、自分の適性を知る機会とする。 (エ)専門的な技術・技能の習得、免許・資格の取得、各種検定の合格を目指す。 (オ)各教科において「進路指導重点主義」の取組を授業内に位置付け実施する。</p>	<p>生活指導の充実・工夫（学校評価アンケート生徒の生活指導満足度80%以上） (ア)校内研修による全教職員の共通理解を図り、それを基盤に生徒の規範意識向上に向けた指導の徹底を図る。 (イ)ホームルームを充実させ、SNSによるトラブルを未然に防ぐ。 (ウ)警察署や外部団体との連携を図り、高校生が事件や事故に巻き込まれないための正しい倫理観を身に付ける。また、自転車等の交通反則通告制度（青切符）の導入に伴う交通安全教育の充実を図る。 (エ)保護者との信頼を基盤に、粘り強い指導を積み重ね、遅刻・欠席のない生活習慣を身につけさせる。 (オ)特別支援コーディネーターと連携し、生徒情報交換会・校内研修等（通報による指導と特別な支援を必要とする生徒への対応）・生活支援ノートの作成・教育相談体制の確立（全員面接結果の活用）を実施する。 (カ)いじめの未然防止・早期発見に努め、いじめ対策委員会を中心とした発生時・発生後の迅速な対応を行う。 健康づくりの啓発 (ア)学校保健計画に基づき、健康づくりに関する取組を組織的・計画的に推進する。 (イ)食物アレルギーについての生徒情報の共有と緊急時体制を整備する。 (ウ)体育科と連携し、体力測定の結果等を活用した生徒への体力向上と健康支援を実施する。</p>	<p>特別活動・部活動の充実・工夫 (ア)教科「人間と社会」におけるボランティア活動を通して、社会参画意識の醸成を図り、自己肯定感を高める。 (イ)組織的・計画的な「オリンピック・パラリンピックレガシー教育」を実践する。 (ウ)集団の一員としての自覚を深め、帰属感を育てることを目的に、学校行事への主体的な参加、部活動への積極的な加入を勧める。 (エ)部活動や学校行事における生徒の活躍をホームページ等で紹介し、全校生徒及び教職員で功績を称えることで学校生活の充実を図る。 (オ)地域貢献活動を計画的に実施し、道徳性を養うとともに、より良い生き方を主体的に選択して行動する力を育成する。 (カ)海外スタディツアーの実施や様々な教育活動において、国際的に通用する人材を育成する。</p>	<p>生徒募集活動・学校広報活動の充実・工夫 (ア)中学生・保護者へ本校の魅力が伝わる広報活動(中学校への出前授業・学校説明会・体験入学・授業公開等)を企画し推進する。 (イ)教職員による中学校訪問、学習塾等への訪問による募集対策を実施する。 (ウ)地域連携を充実・開拓し、本校の魅力を伝える。 (エ)学科の特色を分かりやすく説明した学校案内を作成し、中学校・学習塾等へ配布する。 (オ)学科の特色とともに学校行事や部活動の様子を学校ホームページ等で定期的に情報発信して学校の魅力を伝えていく。 (カ)文化祭や地域祭りでの交流を通して、本校の魅力を発信する。 (キ)荒川区中学校校長会との連携を行い、本校のPR活動を推進する。</p>
---------------	--	---	--	---	--	--

○ 学校課題解決に向けたチーム力の強化

重点目標	方策及び各資格・検定	数値目標
課題解決に向けたチーム力の上とチーム効力感の情勢	服務事故防止研修	年3回以上
	個人情報管理徹底を目的とした校内研修	年2回以上
	定時制課程との協働連絡会	随時
地域とのパートナーシップの確立	孤立学校開放事業、川の手荒川まつり、その他地域の南千住祭、保育・障がい者施設等のボランティア活動	年5回以上
ライフ・ワーク・バランスの推進と業務の効率化	会議のペーパーレス化を図り、会議運営の効率化を図り開催時間の短縮	在籍時間月60時間超過教員ゼロ
	閉庁日の設定や計画的な年休取得	

○ 学習課題の把握と授業力の向上

重点目標	方策及び具体的な取組	数値目標
企業等との「知の連携」を推進	授業内における企業等との連携指導	各科3回以上 各計9回
生徒の基礎学力を把握	個に応じたきめ細かな指導	学力不振中途退学者ゼロ
	生徒理解を目的のケース会議実施	各学期1回以上実施
授業改善の組織体制を構築	ICT機器等を活用したデジタル技術を活用した教育の推進	各教科計画的に実施
	教師道場、研究員制度、若手教員研修を活用した研究授業や校内研修を実施	各学期1回
新しい価値を創造する力を育む教育を工夫・改善して推進	「校外学習」「課題研究」「実習」及び「拠点校実習」では、探究活動の充実とその成果をまとめ、主体的・対話的な深い学びへとつなげる	発表機会の充実
学校図書館や新聞教材等を活用した読解力の育成	教科横断的に授業の中で図書館や新聞教材を活用した調べ学習を実施する	不読率を50%以下
より良い生き方を主体的に選択して行動する力の育成	地域や関係機関と連携し、教科「人間と社会」の指導内容・方法を工夫改善	各科発表会の実施
英会話コミュニケーション能力の育成	基礎的な学習を繰り返し、英語に対する若手意識を払拭させグローバル人材育成に努める	英検受験者5名以上

○ キャリア教育の充実と免許・資格の取得・合格

重点目標	方策及び具体的な取組	数値目標
生徒一人ひとりの適性に合った進路希望の実現	生徒一人一人の進路希望を実現する	進路決定率100%
	生徒一人一人の能力を引き出す就労支援	就職決定率100%
	外部講師を招聘し、社会人としてのマナーやコミュニケーション能力を高める	1回以上実施
	第2学年でインターンシップを実施する	1人1社以上参加
工業系、電気系大学と連携した出前講義	工業系、電気系大学と連携した出前講義	1回以上実施
	企業と連携した進路ガイダンスを実施する	年1回以上
国家資格の合格	電気工事士（第一種、第二種）	15名以上
	特殊無線技士（第二級陸上特殊無線技士）	5名以上
各種検定	英語検定への受験	5名以上
	数学検定への受験	5名以上
	情報技術検定等への受験	30名以上
各種制度の認定	ジュニアマイスター顕彰制度	各科1名以上

○ 安全教育の推進

地域の消防署や警察署と連携を強化した避難訓練や防災訓練を実施する。

○ 規範意識の向上と良好な人間関係構築

重点目標	方策及び具体的な取組	数値目標
生活指導の充実	頭髪服装指導	年3回以上
	性暴力・いじめ防止SNS使用についてのホームルーム指導	年3回以上
基本的な生活習慣の確立	登校時の校門指導（皆勤者の増加）	各学年から1人以上
	粘り強い遅刻指導	1日当たり3人以下
教育相談体制の確立	教育相談委員会の実施、発達障害等の特別な支援を必要とする生徒理解への共通理解	年3回以上
問題行動未然防止	外部関係機関と連携したセーフティ教室の実施	問題行動ゼロ
交通安全教育の充実	交通安全教室の実施（重点指導：自転車）	自転車事故ゼロ

○ 生涯にわたる心身の健康の保持増進

重点目標	方策及び具体的な取組	数値目標
学校保健計画に基づき、生徒の心身の関わる健康づくりの推進	薬物乱用防止教室、自殺防止教室	年1回以上
	飲酒・喫煙防止教室	年1回以上
	感染症への注意喚起と情報発信	時季応じて実施
	食物アレルギーに関する校内研修実施	年間1回以上
健康に関する理解促進	専門家を招聘した講演会を実施して健康保持増進を図る	年1回以上

○ 特別活動・部活動の活性化

重点目標	方策及び具体的な取組	数値目標
地域貢献活動の推進	地域と連携した事業を実施し、地域貢献を積極的に行う	年3回以上
オリンピック・パラリンピックレガシー教育	各ボランティア活動へ積極的に参加させ、自発的な貢献力を育成する	年1回以上
部活動の活性化	各種競技大会・コンテストへの積極的参加	各部年2大会回以上参加申し込み
	文化・スポーツ等特別推薦を実施し、部活動に意欲ある生徒を確保するとともに、部活動の活性化により体力向上を図る	加入率80%以上
海外学校間交流	海外スタディーツアーの実施により海外文化交流を強化する	年間1回

○ 専門高校の魅力を発信する広報活動と生徒募集対策

重点目標	方策及び具体的な取組	数値目標
学校の魅力を効果的に発信する広報活動の推進と生徒募集対策の充実	在校生による母校訪問	生徒30名以上
	ホームページ等からの情報発信	年50回以上
	工業3科を解説した学校案内の作成	7月末までに完成
	学校説明会	各3回以上
	授業公開	各1回
	体験入学	年1回以上
荒川区工作体験教室	年1回以上	
中学校教職員や塾教員対象学校見学会	年1回以上	